

●県内有数の桜の名所

高岡の町の背後にそそり立つ城山は標高一二一メートル。平らな山頂に立つと、西に秀麗な霧島山がそびえている。東は眼下に高岡の市街地を見下ろし、大淀川の下流域から、はるかに宮崎市街とその向こうに日向灘を望見することができる。

慶長五（一六〇〇）年、関ヶ原の戦いで西軍に属した島津義弘は、東軍の真つただ中を切り抜け、三日間駆けて大坂湾岸の住吉に到達した。前へ前へと進む決死の脱出行は島津の繰り抜き戦法と呼ばれ、後世まで語り継がれた。

同年十月一日、細島に上陸した義弘は帰国の途中、東軍の伊東勢の追撃に備え、この山を防塁とし、比志島国貞に命じて守備を固めた。穆佐城とともに防衛線を強化したのである。以後ここは天ヶ城として知られるようになるが、元和（一六一五）年の一国一城令で廃城となった。



天ヶ城公園の歴史民俗資料館。
県内有数の桜の名所でもある

関ヶ原の戦いから四百年。天ヶ城は今ではソメイヨシノの「千本桜」で知られる。県内最高の桜の名所で、ツツジ五千本とともに、華麗な花に彩られる公園となっている。毎年三月下旬から四月上旬にかけて催される桜祭りは、県内外からの大勢の花見客でにぎわう。

公園内の天ヶ城茶屋の料理も評判がよい。また野球場、弓道場、体育館も整備され、ローラーライダー、パターゴルフなど家族で楽しむ施設もそろっている。春のクロスカントリー大会、勇壮な太鼓祭りなど人気イベントもここで展開する。

城山は、高岡町民の活気を生み出す場所となり、一九七三（昭和四十八）年から八九（平成元）年までの十六年をかけて「天ヶ城運動公園」も整備された。

城郭の形に造られた「天ヶ城歴史民俗資料館」

は、夜はライトアップされて、白壁の楼閣を浮き出させ、遠くからもその雄姿が眺められる。鉄筋四階建ての館内には、大淀川の豊かな恩恵を受けてきた高岡の姿を示すファンタビュール、人々の暮らしの歴史を語るパノラマ模型などが展示されている。島津領の国境の要衝であった高岡は、麓と呼ばれる武家屋敷の家並みが、今もその面影をとどめている。戦国の勇将・島津義弘が見立てた要害の地は、天ヶ城を拠点に新たな発展を志向する時代を迎えている。今こそ、前へ前への精神で窮地を脱した島津の繰り抜き戦法に学び、現代を動かす新たな繰り抜き戦法を生み出すときであろう。

首藤光幸